

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	貴志 雅之
専門分野 Academic Field	アメリカ演劇

主たる研究テーマ Principal Research Subject	冷戦からポスト冷戦、ポスト 9.11 へのアメリカ演劇の軌跡と方向性
<p>本年度は上記の主たる研究テーマを含め年度当初 3 つであった研究プロジェクトを 4 つに増やし、それらの成果を発表した。これらの研究はすべて科研「20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究—1900 年からポスト 9.11」(期間：平成 24—27 年度) の一環としてなされたものである。4 つの研究プロジェクトの成果は以下の通り：</p> <p>(1) Eugene O'Neill のドラマトゥルギーに関する政治学研究の展開：2013 年 9 月の第 3 回日本アメリカ演劇学会シンポジウム「オニールのアメリカ」で発表した Eugene O'Neill のドラマトゥルギーに関する政治学研究をさらに展開し、「ユージーン・オニール、反逆の演劇の軌跡 — 詩人、所有者、憑かれた者たちの弁証法」と題する論考を『アメリカ演劇』第 26 号 (ユージーン・オニール特集 III) (2015 年 3 月) で発表。(2) 冷戦時代から 9.11 アメリカ同時多発テロを経た現代に至るポスト冷戦時代を中心に、アメリカの政治社会的事件・事象および国内外の国家戦略とアメリカ演劇の表象戦略のデータベース化と再検証を行った。この成果の一つは、昨年研究成果報告書で予告したように、Tony Kushner に焦点化した論考「天界と人間界、災害を生き抜く政治学 — トニー・クシュナーの『エンジェルズ・イン・アメリカ』」として共著『災害の物語学』(世界思想社, 2014 年 5 月) で発表された。(3) 2001 年以降のピューリッツァー賞受賞演劇作品を中心に 21 世紀アメリカ演劇のドラマトゥルギーの方向性と、特にポストモダン・アメリカにおける家族・個人・社会の演劇表象の在り方を考察した研究の成果を「子供の死とパラレル・ユニバース—David Lindsay-Abaire の <i>Rabbit Hole</i> をめぐって」と題して、平成 26 年度 中・四国アメリカ文学会冬季大会シンポジウム「アメリカン文学における幸せの追求」(2014 年 12 月 13 日, 県立広島大学) で発表。(4) 科研のテーマである 20-21 世紀アメリカ演劇研究の政治学に至る布石として 19 世紀の作家・劇作家・評論家 Edgar Allan Poe の演劇政治学を再検証した研究「黙殺される劇作と劇評 — アメリカ演劇におけるポーのパフォーマンスとその評価」を、日本ポー学会第 7 回年次大会シンポジウム「ポーとアメリカン・シアター」(2014 年 9 月 13 日, 慶應義塾大学三田キャンパス) で発表。なお、このポーの演劇政治学研究は、上記科研の研究対象となる 20-21 世紀アメリカ演劇の政治学に至る一つの布石として 19 世紀の作家ポーの劇評数編と未完の演劇作品を現代アメリカ演劇の視点から再検証した点で、本科研プロジェクトにかかわるプロジェクトであることを付言する。</p>	